

企画・発行・編集 ■ 災害ボランティアぐんま  
災害ボランティアぐんま事務局 (昭和庁舎1階)  
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1  
Tel & Fax 027-221-5771  
URL : <http://www.12.wind.ne.jp/saivol/>  
E-mail : [saivol-g@dan.wind.ne.jp](mailto:saivol-g@dan.wind.ne.jp)

## 群馬県総合防災訓練に参加

平成20年9月6日土曜日、安中市中宿の碓氷川左岸を会場に、平成20年度群馬県総合防災訓練が、群馬県、安中市ほか65団体、17の協力機関の参加を得て実施されました。

災害ボランティアぐんまは会員15名が参加。県社会福祉協議会、安中市社会福祉協議会、県赤十字災害ボランティア、青年会議所群馬ブロック協議会と連携して、災害ボランティアセンター立上げの訓練と、災害救援物資受入訓練を実施しました。

災害が少ない本県ですが、万一の時にあわてないよう、災害ボランティアセンターの立上げ訓練を県総合防災訓練では初めて実施しました。



中越地震、みなかみ町の大雪、中越沖地震と、ボランティア活動には慣れています。実際ボランティアセンターを立上げ、ニーズとボランティアをマッチングさせたり、指示を出すことには、なかなかうまくいきませんでした。



何度も参加して、具体的なイメージを描くことが必要である、との訓練に参加した関係者の意見でした。

21年は、みどり市での開催が予定されています。会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

## ボランティアリーダー養成講座開催

平成20年11月15日(土)、地震や台風などの災害時に避難所などでさまざまなボランティア活動に取り組むボランティアリーダーの養成講座を、県庁昭和庁舎で開催しました。

特定非営利活動法人「尾瀬なでしこの会」理事長の後藤満里子さんは、新潟県中越地震の被災地に入り、地震で明るさを失っていた子どもたちを元気づけた体験や、ボランティア活動をつ



づけて感じた経験談を、また、県社会福祉協議会の松村喜義さんは「災害ボランティアセンターの機能と役割」と題

して講演。

財団法人市民防災研究所伊藤英司研究員が、すごろくなどのゲームや防災に関するゲームを通じて、楽しみながら活動時に必要な判断力を身に付ける講演を行いました。

「静岡県内外の災害ボランティア  
救援活動のための図上訓練」に参加

鈴木 孝尚さん（伊勢崎）

平成20年2月23、24の両日、静岡市で開催された「第3回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」へ参加しました。

東海地震に備えて静岡県内だけでなく、北は北海道から南は九州の宮崎県、大分県までの元気に活動する災害ボランティアの人々、約250名が参加しました。

1日目は、第1部「東海地震の被害想定を学ぶ」、第2部「被災者支援の時間経過に伴う変化を考える」で市町村別で訓練しました。私は、熱海市のグループへ加わり、想定される被害を

イメージしながら議論し、課題や問題点を表やコメントを使い、時系列でビジュアル化し救援活動のシミュレーションを行いました。

2日目は、図上訓練で静岡県内市町村参加者が「市町災害ボランティア本部立上げの検証」、県外参加者が「県災害ボランティア支援センター立上げの検証」を行い、全国からどのような被災地にスマートに駆け付けるのが良いかと支援体制のシミュレーションをしました。その中で、群馬県が地理的にその中間後方支援基地としていかに重要であるということが浮かび上がってきました。

今回の図上訓練に参加して、東海地震への静岡県民の危機意識の高さ、また全国の災害ボランティアの支援体制



の熱意が直接感じられ大いに刺激されました。災害ボランティア活動も地域や近隣ばかりでなく全国とのネットワークの大切さを感じました。これからの災害ボランティアぐんまへの活動にとても参考になりました。

8都県市合同防災訓練に参加

平成20年8月31日、東京都中央区晴海会場で第29回8都県市合同防災訓練が開催されました。首都東京での災害防災訓練とあつて、訓練規模の大きさにまず目を見張りました。

首都圏での災害が起きたときの被害規模を想定しての大規模な訓練に、災害ボランティアぐんまからは、14名の会員が参加し、災害救援ボランティア推進委員会の協力を得て、東京都赤十字救護ボランティアの搬送指導を受け、医療連携訓練として担架搬送を行いました。

早朝前橋を出発する際、心配した天気でしたが、東京に着く頃になると回復して、好天となり高温、多湿の過酷な環境の中、医師の指示のもと、約200名の傷病者の搬送を無事終了いたしました。

また、炎天下、傷病者としての役割を黙々と演じてくれた都内の大学生、専門学校の学生ボランティアも協力的で、本番さながらの訓練でした。

防災訓練終了後、7月にオープンした銀座の群馬総合情報センターを見学した後、帰路につきました。



## 上級救急救命講習会

平成20年12月14日(日) 前橋市消防本部中央消防署において上級救命講習会を開催し、20名の会員が講習会に臨みました。

最初に、前橋市における救急車の出動状況等の説明から始まり、その後、応急手当の基礎知識として、応急手当を受けた人の生存率は、応急手当を受けない場合と比べて1.4倍もあるとの説明を受けました。

救命のリレー(119番通報早い応急手当、早い救命措置、早い救命医療)が何よりも重要であるとは救急救命士



の話です。

午前中は、実習として、止血法や傷病者の体位管理、担架搬送法、骨折に対する応急手当法を学びました。

午後は、心肺蘇生法とAEDの使用について学びました。AEDの使用法はすでに受講生の皆さんは昨年、習得済みでしたが、緊急時を想定して行うと、その間の訓練もなかったことから、スムーズにはなかなか行かないようです。

繰り返し、イメージトレーニングを重ねた方が、いざというときに体が動



くのではないでしょうか。

今回の講習では小児、乳児の心肺蘇生法についても学びました。大人と違って心臓マッサージの力の入れ具合がなかなか難しいとの参加者の声でした。

また、上級救命講習会は、講習会終了時に認定試験があり、参加者は、一生懸命講習に取り組んでいました。

実技は、繰り返し行っていないと、その方法を忘れがちです。2年から3年に1回は改めて講習会に参加してください。お住まいの市町村でも救命講習会は実施しておりますので、市町村広報誌は是非ご一読ください。お近くの会場で受講できると思います。

### 全国ボランティアフェスティバルに参加して

清水祐樹さん(富岡)

9月21・22日、「第17回全国ボランティアフェスティバル」にいがた大会に参加しました。昨年のあいち大会と、2度目の参加となりました。

新潟県は幼いころから両親に連れられ毎年海水浴に訪れていたので懐かしかったです。

高速度路から見えた山肌の崩れが、二度の大震災を物語っていました。

私は、新潟ユニゾンプラザで行われた「被災地を支える大きな力」学生ボ

ランティアから世代を超えて」に参加させていただきました。グループワークは昨年の全国高等学校総合文化祭以来となりましたが、皆さん私より年配の方で、いろいろな方からお話を伺いました。夜は朱鷺メッセで開かれた交流会に参加させていただきました。貴重な体験をさせていただきました。料理も大変おいしかったです。

昨年のあいち大会から見れば小規模だったかも知れませんが、度重なる災害からの復興は勇気とともに「あきらめない」という気持ちがひしひしと伝わり、フェスティバルの会場として最もふさわしく感じました。

高校生の私にとって何もできませんが、内容は、学校の先生方や所属しているJRCのメンバーに参加の報告として伝えました。

今、私の机の上には、仲良く手をつないだ2羽の朱鷺のマスコットがあります。来年の国体のマスコットだと聞きました。手が磁石になっていて何羽でも増やせます。

「広がれボランティアの輪」そのとおりだと思います。このマスコットを見るたびに、私はこの2日間のことを思い出します。

新潟のみなさん頑張ってください。国体の成功も祈っています。そしてありがとうございます。

養成講座を受講して

大友 淳子さん（富士見）

私は、これまで災害ボランティアの活動に参加する中で、その関わりについて考えてきた。「災害ボランティアぐんま」の会員になったのは、活動を一過性のもので終わりにするのではなく、たとえ活動は1日、2日であったとしても、被災地の復興を考えていける災害ボランティアとしての集団をつくることに共感したからであった。

今回の講座は、これまでの災害ボランティアセンターの経緯、災害ボランティアとは、被災者におけるボラン



ティアニーズという総合的な内容であった。私は、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワークが、被災地で社会福祉協議会や他のボランティア団体等との情報の共有や連携をどのように取り組んでいるのか、平常時から何を必要と感じ取り組んでいるのか、知りたいと思っていたので、もっと踏み込んだ内容を期待していた。

しかし、今回講座に参加する機会を得、大変勉強になった。災害ボランティア活動が、「泥のかきだし」「廃材の撤去」等の一つの作業ではなく、「被災地復興」という大きな目標に向けて積み上げていく活動の一つだと捉えることができた。また、被災地復興の主人公はそこで暮らす人たちであり、ボランティアが作るものでないということも再認識できた。私たちは復興の手助けをするに過ぎず、痕跡を残すことのない活動をすべきだと感じた。

今後も、このような講座の開催を機に、多くを学んでいきたい。また、「災害ボランティアぐんま」がボランティア団体として、災害時にとどまらず、平常時も取り組んでいけるよう、会員で話し合う機会をつくり、活動していけたらと思う。

私も微力ながら、今後のその活動を支えていきたいと思っている。

危機管理フェアに出展

平成21年1月16・17日の両日、県庁1階県民ホールで「群馬県危機管理フェア」が開催されました。このイベントは、災害、テロ、新型インフルエンザ等県民生活の安全安心を脅かす危機事案について、県民の方々に各種の情報や対処方法について正しく理解してもらうために開催されました。

「災害ボランティアぐんま」も出展し、災害ボランティアぐんまの活動の様子を紹介したパンフレットの配布や、写真パネルの展示などにより、災害ボランティアぐんまの活動の一端を紹介するとともに、県民の皆さんに私たちの活動への参加を呼びかけました。



会場には親子連れなど多くの県民が訪れ、群馬の危機管理を担う警察や消防、自衛隊、国土交通省等関係機関が保有する防災・救急装備資材等の展示に見入っていました。

編集後記

災害ボランティアぐんま通信第5号を発行いたしました。

昨年も国外では、中国四川省大地震やミャンマーサイクロン被害、国内では、岩手・宮城内陸地震、愛知県岡崎市の集中豪雨と大規模な自然災害が発生した年でした。

災害ボランティアぐんまの会員が、被災地に支援に行く事態こそありませんでしたが、被災地の被害状況を新聞やテレビの報道で知るたびに、自然災害の厳しさを痛感しています。

災害ボランティアぐんまの今年度の活動は、講習会が中心となりましたが、いざというときに、まごつかぬよう実践的な訓練を積み重ねていくことが重要であると感じています。

（追記）災害ボランティアぐんま会員用帽子を作成いたしました。ご希望の方には、1個500円で配布しています。災害ボランティアぐんま事務局（県庁舎14階NP

O・ボラティア推進課）へお越しの上お求めください。

（災害ボランティア事務局）

